令和６年度　第１回　高等学校入学者選抜審議会

日時　令和６年７月２５日（木）１０：００～
場所　行政庁舎１１階　第二会議室

次　　第

１　開　会

２　諮　問
（１）令和８年度宮城県立高等学校入学者選抜方針について
（２）令和８年度宮城県立高等学校入学者選抜日程について

３　審　議
（１）令和８年度宮城県立高等学校入学者選抜方針について
（２）令和８年度宮城県立高等学校入学者選抜日程について

４　報　告
（１）令和６年度宮城県公立高等学校入学者選抜結果について
（２）令和７年度宮城県公立高等学校入学者選抜について
（３）専門委員会報告
イ　高校入試におけるＷｅｂ出願について
ロ　調査書の記載事項について
ハ　現行入試制度における、例外的な選抜の在り方について

５　その他

６　閉　会

【　資　料　】
○ 資料１　　諮問・審議関係資料
○ 資料２　　報告関係資料
○ 資料３　　調査書様式例
○ 別冊　　令和６年度宮城県公立高等学校入学者選抜学力検査の分析結果
令和７年度宮城県公立高等学校入学者選抜求める生徒像・選抜方法一覧

高等学校入学者選抜審議会条例

（昭和２８年３月２８日条例第４０号）

最終改正　平成２４年１２月条例第７１号

第１条　教育委員会の諮問に応じ，高等学校の通学区域の検討，入学者の選抜の方法及びその実施並びに学力検査問題の作成について調査審議するため，高等学校入学者選抜審議会（以下「審議会」という。）を置く。

第２条　審議会は，３０人以内の委員で組織する。

２　審議会に，専門の事項を調査研究させるため，専門委員を置く。

第３条　委員及び専門委員は，学校の教職員，総合教育センターの職員，教育庁の職員及び学識経験者のうちから教育委員会が任命又は委嘱する。

第４条　委員の任期は二年とする。ただし，補欠による委員の任期は，前任者の残任期間とする。

２　教育委員会が必要と認めたときは，前項の規定にかかわらず，任期中においても当該委員を解職することができる。

３　専門委員は，当該専門の事項に関する調査研究が終了したときは，退任するものとする。

第５条　審議会に，委員長及び副委員長各一人を置き，委員の互選によって定める。

２　委員長は，会務を掌理する。

３　副委員長は，委員長に事故あるとき，その職務を代行する。

第６条　審議会の会議は，必要に応じて委員長が招集する。

第７条　この条例に定めるものを除く外，審議会の議事の手続その他審議会の運営に関し必要な事項は，委員長が会議にはかって定める。

附　則

この条例は，公布の日から施行する。

附　則（昭和４７年１０月１１日条例第２７号抄）

（施行期日）

１　この条例は，公布の日から施行する。

附　則（平成２４年１２月２０日条例第７１号抄）

（施行期日）

１　この条例は，平成２５年４月１日から施行する。

第１回高等学校入学者選抜審議会　名簿

（審議会委員）

No.	氏　　名	現　　職	備　考
1	田端　健人	宮城教育大学教職大学院　教授	
2	熊谷　龍一	東北大学大学院教育学研究科　教授	
3	坪田　益美	東北学院大学地域総合学部　教授	
4	川嶋　輝彦	仙台経済同友会　専務理事・事務局長	
5	高橋　千香子	宮城県高等学校ＰＴＡ連合会　理事	
6	佐藤　英	宮城県ＰＴＡ連合会　副会長	
7	志小田　美弘	東松島市教育委員会　教育長	
8	新妻　英敏	仙台市教育局学校教育部教育指導課　課長	
9	伊藤　宣子	聖ウルスラ学院英智小中学校・高等学校　校長	
10	菊池　晃子	名取市立増田中学校　校長	
11	福田　元明	仙台市立第二中学校　校長	
12	猪股　智秋	宮城教育大学附属中学校　校長	
13	高橋　賢	宮城県仙台第二高等学校　校長	
14	勅使瓦　理恵	宮城県名取高等学校　校長	
15	佐藤　智子	宮城県田尻さくら高等学校　校長	
16	中山　治彦	宮城県総合教育センター　所長	

（教育庁）

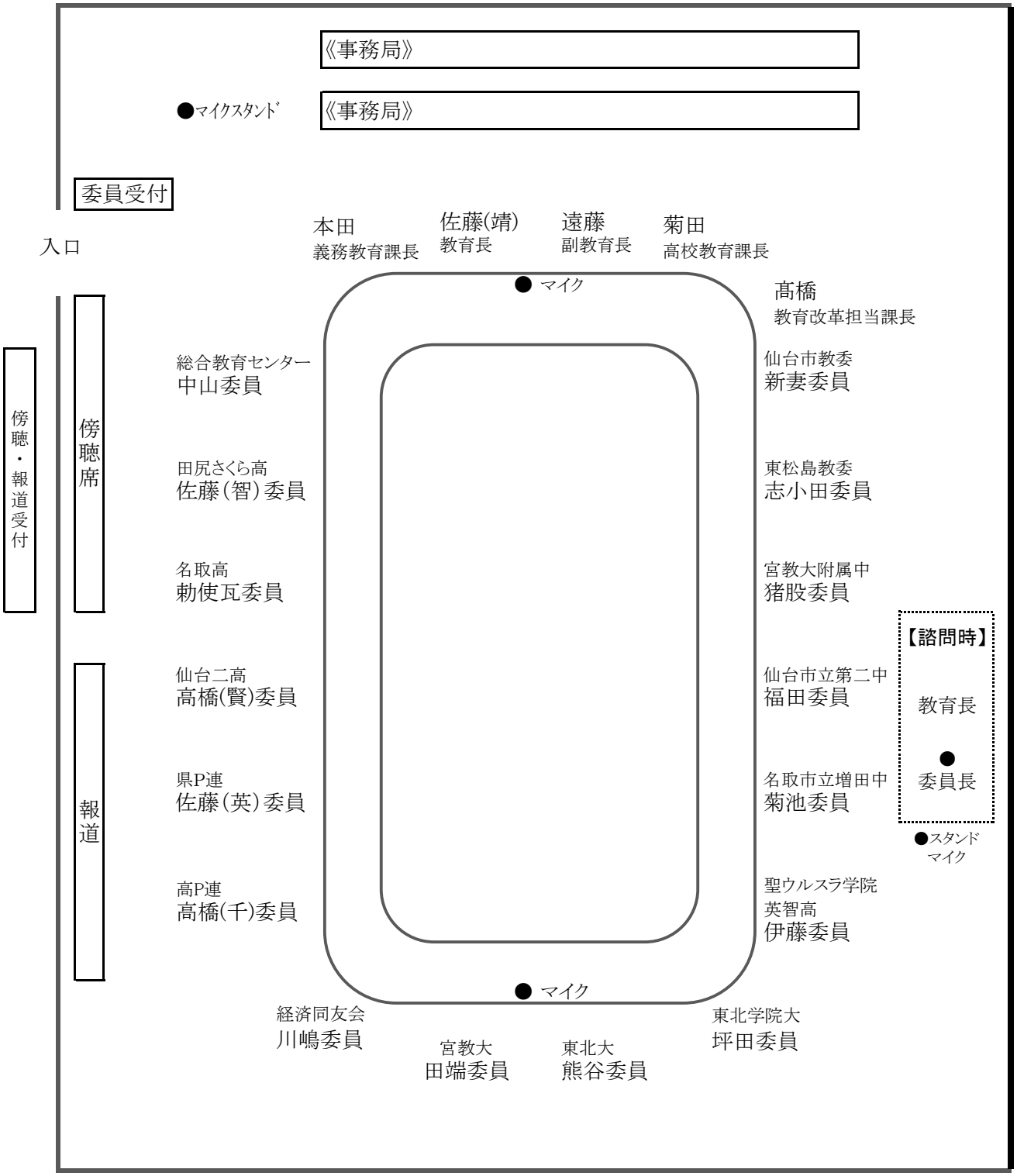
教育委員会	教育長	佐藤　靖彦
	副教育長	佐藤　芳明
	副教育長	千葉　潤一
	副教育長	遠藤　秀樹
教職員課	県立学校人事班課長補佐	菅野　正人
義務教育課	課長	本田　史郎
	指導班副参事	村上　憲一
高校教育課	課長	菊田　英孝
	教育改革担当課長	髙橋　佳宏
	総括課長補佐	伊藤　大輔
	副参事兼総括課長補佐兼総括室長補佐	吉田　光輝
	教育改革班　主幹	池田　和繁
	〃　課長補佐	滝井　隆太
	教育指導第一班課長補佐	上遠野　裕子
	〃　主幹	菅野　麻美
	〃　主幹	本郷　忍
	〃　主幹	菅野　準
	〃　主幹	岡田　康佑
	〃　主幹	佐々木　威芳
	教育指導第二班課長補佐	大澤　健史
	〃　主幹	田畑　洋行
	〃　主任主査	佐藤　光
	〃　主任主査	星　佳宏

（仙台市教育局）

学校教育部	高校教育課　課長	西城　光洋
	〃　指導主事	似内　朋子

令和6年度　第1回高等学校入学者選抜審議会　座席図

行政庁舎11階　第二会議室



資料１

諮問・審議　関係資料

諮　問

諮問文　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１

１　令和８年度宮城県立高等学校入学者選抜方針について（別紙１）　・・　２

２　令和８年度宮城県立高等学校入学者選抜日程について（別紙２）　・・　４

審　議

１　令和８年度宮城県立高等学校入学者選抜方針について　・・・・・・・・　５

２　令和８年度宮城県立高等学校入学者選抜日程について

（１）平成２８年度～令和７年度高等学校入学者選抜日程の推移　・・・・　５

（２）令和８年度入学者選抜日程のシミュレーション　・・・・・・・・・・　６

高　第２３４号
令和６年７月２５日

高等学校入学者選抜審議会委員長　殿

宮城県教育委員会
教育長　佐　藤　　靖　彦

宮城県立高等学校入学者選抜について（諮問）

このことについて、高等学校入学者選抜審議会条例第１条の規定により、下記事項について諮問します。

記

１　令和８年度宮城県立高等学校入学者選抜方針について（別紙１）

２　令和８年度宮城県立高等学校入学者選抜日程について（別紙２）

（別紙１）

令和８年度宮城県立高等学校入学者選抜方針（案）

宮城県立高等学校における入学者選抜は、高等学校及び中学校における教育の目的の実現及び健全な教育の推進を期し、公正かつ適正な選抜方法と選抜尺度により厳正に行うものとする。

１　基本原則

(1)　各宮城県立高等学校長（以下「高等学校長」という。）は、その教育を受けるに足る多様な能力と適性等を積極的に評価し、選抜するものとする。

(2)　出願事務及び選抜事務の厳正を期するため、中学校にあっては調査書等作成のための委員会を、宮城県立高等学校（以下「高等学校」という。）にあっては選抜のための委員会を設置するものとする。

２　第一次募集

(1)　すべての高等学校は、学校・学科の特色に応じて、第一次募集を実施する。選抜に当たって、高等学校長は、原則として、調査書、学力検査の結果及び必要に応じて実施する面接、実技（体育及び美術に関する学科の場合）、作文の検査結果に基づいて共通選抜と特色選抜の２通りの方法により選抜するものとする。

(2)　学力検査

イ　学力検査の実施教科は、国語、社会、数学、理科及び英語とする。

ロ　学力検査の内容は、中学校学習指導要領の趣旨を踏まえ、基礎的・基本的なものを重視するとともに、生徒の多様な能力・適性等が評価できる適切な質と分量の問題になるよう配慮するものとする。

３　追試験

すべての高等学校は、第一次募集検査日当日に、やむを得ない事由により受験できなかった者を対象に、追試験を実施する。

この場合、学力検査、面接、実技（体育及び美術に関する学科の場合）及び作文並びに選抜方法等については、第一次募集に準ずる。

４　第二次募集

合格者数が、募集定員に満たない場合においては、第二次募集を行うものとする。選抜に当たって、高等学校長は、調査書のみの審査、あるいは調査書に、第二次募集の学力検査、面接、実技（体育及び美術に関する学科の場合）及び作文のいずれか一つ又は複数の結果を合わせた審査を行うことができる。

５　連携型中高一貫教育に関する選抜

連携型中高一貫教育を実施する高等学校は、連携型中高一貫教育を実施する中学校の卒業生を対象とした選抜を実施する。選抜に当たって、当該高等学校長は、原則とし

て、調査書、その他必要な書類、学力検査（第一次募集に準ずる。）及び面接等の結果に基づいて総合的に審査するものとする。

６　社会人特別選抜

定時制課程の学科を有する高等学校においては、第一次募集において社会人を対象とした選抜を行うことができる。当該高等学校長は、学力検査について、弾力的に対応することができるものとする。

７　通信制課程に関する選抜

当該高等学校長は上記によらず、選抜を行うことができるものとする。

８　全国募集選抜

全国募集を行うモデル校として指定された高等学校は、該当する市町村と生徒受け入れに関して連携して、全国募集選抜への出願者を対象とした選抜を実施する。

この場合、募集人数は、募集定員の外数とし、選抜に当たって、当該高等学校長は、原則として、調査書、学力検査（第一次募集に準ずる。）及び面接等の結果に基づいて総合的に審査するものとする。

（別紙２）

令和８年度宮城県立高等学校入学者選抜日程（案）

第一次募集

実　施　日	令和８年　３月　４日（水）
追 試 験 日	令和８年　３月１０日（火）
合格発表日	令和８年　３月１６日（月）

審　議

１　令和８年度宮城県立高等学校入学者選抜方針について

令和８年度宮城県立高等学校入学者選抜方針（案）（２ページ（別紙１）参照）

２　令和８年度宮城県立高等学校入学者選抜日程について

（１）平成２８年度～令和７年度宮城県立高等学校入学者選抜日程の推移

入試年度	28年度	29年度	30年度	31年度	令和２年度	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	**令和8年度**
入試制度	前期選抜・後期選抜・第二次募集				第一次募集・第二次募集						
推薦入学・前期選抜出願者受付	1.12～15	1.10～13	1.9～12	1.8～11							
推薦入学出願者の面接等											
（私立高入試Ａ日程）	1.27(水)	1.25(水)	1.24(水)	2.4(月)	2.4(火)	2.2(火)	2.1(火)	1.31(火)	1.30(火)	1.30(木)	
（私立高入試Ｂ日程）	1.29(金)	1.27(金)	1.26(金)	2.6(水)	2.6(木)	2.4(木)	2.3(木)	2.2(木)	2.1(木)	2.3(月)	
前期選抜実施日	2. 3(水)	2. 1(水)	1.31(水)	1.31(木)							
推薦入学結果通知前期合格発表	2.12(金)	2. 9(木)	2. 8(木)	2. 8(金)							
第一次募集(後期選抜)出願受付	2.23～26	2.21～24	2.19～22	2.18～21	2.17～20	2.15～18	2.15～18	2.14～17	2.13～16	2.10～14	
第一次募集(後期選抜)学力検査	3. 9 (水)	3. 8 (水)	3. 6 (火)	3. 6 (水)	3.4(水)	3.4(木)	3.4(金)	3.6(月)	3.5(火)	3.4(火)	
第一次募集(後期選抜)追試験					3.10(火)	3.10(水)	3.10(木)	3.13(月)	3.8(金)	3.7(金)	
第一次募集(後期選抜)合格者の発表	3.16(水)	3.16(木)	3.14(水)	3.14(木)	3.16(月)	3.16(火)	3.16(水)	3.16(木)	3.14(木)	3.13(木)	
第二次募集出願受付	3.17～18	3.17～21	3.15～19	3.15～18	3.17～19	3.17～19	3.17～22	3.17～22	3.15～19	3.14～18	
第二次募集実施日・合格発表	3.23～24	3.22～23	3.20 又は22	3.19 又は20	3.23 又は24	3.22 又は23	3.23 又は24	3.23 又は24	3.21 又は22	3.19 又は21	

※令和８年カレンダー

１　月						
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

２　月						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28

３　月						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

（２）令和８年度入学者選抜日程のシミュレーション

令和７年度入試（2025年）

水	1月8日	出願希望調査
木	9日	出願希望調査
金	10日	出願希望調査
土	11日	
日	12日	
月	13日	成人の日
火	14日	
水	15日	
木	16日	
金	17日	
土	18日	
日	19日	
月	20日	
火	21日	
水	22日	
木	23日	
金	24日	
土	25日	
日	26日	
月	27日	
火	28日	
水	29日	
木	30日	
金	31日	
土	2月1日	
日	2日	
月	3日	
火	4日	
水	5日	
木	6日	
金	7日	
土	8日	
日	9日	
月	10日	第一次募集出願
火	11日	建国記念の日
水	12日	第一次募集出願
木	13日	第一次募集出願
金	14日	第一次募集出願
土	15日	
日	16日	
月	17日	
火	18日	
水	19日	
木	20日	
金	21日	
土	22日	
日	23日	天皇誕生日
月	24日	振替休日
火	25日	
水	26日	
木	27日	
金	28日	
土	3月1日	卒業式
日	2日	
月	3日	
火	4日	***第一次募集学力検査日***
水	5日	*第一次募集面接等*
木	6日	
金	7日	***第一次募集追試験***
土	8日	
日	9日	
月	10日	
火	11日	鎮魂の日
水	12日	
木	13日	***第一次募集合格発表***
金	14日	第二次募集出願
土	15日	
日	16日	
月	17日	第二次募集出願
火	18日	第二次募集出願
水	19日	第二次募集実施・合格発表
木	20日	春分の日
金	21日	第二次募集合格発表
土	22日	
日	23日	
月	24日	
火	25日	

令和８年度入試　（2026年）

案１

水	1月7日	出願希望調査
木	8日	出願希望調査
金	9日	出願希望調査
土	10日	
日	11日	
月	12日	成人の日
火	13日	
水	14日	
木	15日	
金	16日	
土	17日	
日	18日	
月	19日	
火	20日	
水	21日	
木	22日	
金	23日	
土	24日	
日	25日	
月	26日	
火	27日	
水	28日	
木	29日	
金	30日	
土	31日	
日	2月1日	
月	2日	
火	3日	
水	4日	
木	5日	
金	6日	
土	7日	
日	8日	
月	9日	第一次募集出願
火	10日	第一次募集出願
水	11日	建国記念の日
木	12日	第一次募集出願
金	13日	第一次募集出願
土	14日	
日	15日	
月	16日	
火	17日	
水	18日	
木	19日	
金	20日	
土	21日	
日	22日	
月	23日	天皇誕生日
火	24日	
水	25日	
木	26日	
金	27日	
土	28日	
日	3月1日	卒業式
月	2日	
火	3日	
水	4日	***第一次募集学力検査日***
木	5日	*第一次募集面接等*
金	6日	
土	7日	
日	8日	
月	9日	
火	10日	***第一次募集追試験***
水	11日	鎮魂の日
木	12日	
金	13日	
土	14日	
日	15日	
月	16日	***第一次募集合格発表***
火	17日	第二次募集出願
水	18日	第二次募集出願
木	19日	第二次募集出願
金	20日	春分の日
土	21日	
日	22日	
月	23日	第二次募集実施・合格発表
火	24日	第二次募集合格発表

案２

水	1月7日	出願希望調査
木	8日	出願希望調査
金	9日	出願希望調査
土	10日	
日	11日	
月	12日	成人の日
火	13日	
水	14日	
木	15日	
金	16日	
土	17日	
日	18日	
月	19日	
火	20日	
水	21日	
木	22日	
金	23日	
土	24日	
日	25日	
月	26日	
火	27日	
水	28日	
木	29日	
金	30日	
土	31日	
日	2月1日	
月	2日	
火	3日	
水	4日	
木	5日	
金	6日	
土	7日	
日	8日	
月	9日	第一次募集出願
火	10日	第一次募集出願
水	11日	建国記念の日
木	12日	第一次募集出願
金	13日	第一次募集出願
土	14日	
日	15日	
月	16日	
火	17日	
水	18日	
木	19日	
金	20日	
土	21日	
日	22日	
月	23日	天皇誕生日
火	24日	
水	25日	
木	26日	
金	27日	
土	28日	
日	3月1日	卒業式
月	2日	
火	3日	***第一次募集学力検査日***
水	4日	*第一次募集面接等*
木	5日	
金	6日	***第一次募集追試験***
土	7日	
日	8日	
月	9日	
火	10日	
水	11日	鎮魂の日
木	12日	***第一次募集合格発表***
金	13日	第二次募集出願
土	14日	
日	15日	
月	16日	第二次募集出願
火	17日	第二次募集出願
水	18日	第二次募集実施・合格発表
木	19日	第二次募集合格発表
金	20日	春分の日
土	21日	
日	22日	
月	23日	
火	24日	

案３

水	1月7日	出願希望調査
木	8日	出願希望調査
金	9日	出願希望調査
土	10日	
日	11日	
月	12日	成人の日
火	13日	
水	14日	
木	15日	
金	16日	
土	17日	
日	18日	
月	19日	
火	20日	
水	21日	
木	22日	
金	23日	
土	24日	
日	25日	
月	26日	
火	27日	
水	28日	
木	29日	
金	30日	
土	31日	
日	2月1日	
月	2日	
火	3日	
水	4日	
木	5日	
金	6日	
土	7日	
日	8日	
月	9日	第一次募集出願
火	10日	第一次募集出願
水	11日	建国記念の日
木	12日	第一次募集出願
金	13日	第一次募集出願
土	14日	
日	15日	
月	16日	
火	17日	
水	18日	
木	19日	
金	20日	
土	21日	
日	22日	
月	23日	天皇誕生日
火	24日	
水	25日	
木	26日	
金	27日	
土	28日	
日	3月1日	卒業式
月	2日	
火	3日	
水	4日	***第一次募集学力検査日***
木	5日	*第一次募集面接等*
金	6日	
土	7日	
日	8日	
月	9日	***第一次募集追試験***
火	10日	
水	11日	鎮魂の日
木	12日	
金	13日	***第一次募集合格発表***
土	14日	
日	15日	
月	16日	第二次募集出願
火	17日	第二次募集出願
水	18日	第二次募集出願
木	19日	第二次募集実施・合格発表
金	20日	春分の日
土	21日	
日	22日	
月	23日	第二次募集合格発表
火	24日	

資料２

報告　関係資料

報　告

（１）令和６年度宮城県公立高等学校入学者選抜結果について

①　総括　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1
②　学科別出願者数・合格者数等　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　2
③　地区別出願者数・合格者数等（全日制課程）　・・・・・・・・・・・・・・・・・　2
④　学科別出願倍率　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3
⑤　地区別出願倍率（全日制課程）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3
⑥　出願状況から見た全県一学区に伴う地区外受験状況について・・・・・　3
⑦　令和６年度公立高等学校入学者選抜学力検査の分析結果について・・・　4

（２）令和７年度宮城県公立高等学校入学者選抜について

①　募集定員　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　6
②　日程等　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　6

（３）専門委員会報告

イ　高校入試におけるＷｅｂ出願について　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　7
ロ　調査書の記載事項について　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１３
ハ　現行入試制度における、例外的な選抜の在り方について　・・・・・・・１５

報告１

（1）令和6年度宮城県公立高等学校入学者選抜の結果について

① 総 括

（単位：人）

		全日制課程		定時制課程	
		令和6年度	令和5年度	令和6年度	令和5年度
中学校卒業予定者数 ※1		19,689	19,988	―	―
募集定員 (a)		13,640	13,760	960	960
第一次募集	出願者数	13,609	14,095	384 (2)	352 (0)
	出願倍率 (倍)	1.00	1.02	0.40	0.37
	欠席者数	182	165	10	8
	受験者数	13,427	13,930	374 (1)	344 (0)
	受験倍率 (倍)	0.98	1.01	0.39	0.36
	合格者数 (b)	11,817	11,984	366 (1)	332 (0)
併設型中学校から併設型高等学校への入学※2		(196)	(200)	↑	↑
連携型選抜 ※3	募集人数	(72)	(72)	（注）（　）内数字は，社会人特別選抜合格者数で内数 令和5年度は社会人特別選抜受験者0名。	
	出願者数	(35)	(48)		
	合格者数	(35)	(47)		
第二次募集	募集人数	1,828	1,779	594	628
	出願者数	107	165	29	30
	受験者数	106	163	27	30
	合格者数 (c)	101	159	25	27
全合格者数 (d) ＝(b)＋(c)		11,918	12,143	391	359
充足率 (%) (d)÷(a) *100		87.4%	88.2%	40.7%	37.4%

※１　中学校卒業予定者数は、令和６年度は令和５年５月１日現在、令和５年度は令和４年５月１日現在の数字である。

※２※３　併設型中学校から併設型高等学校への入学及び連携型選抜の数値は、第一次募集の出願者数・受験者数・合格者数の内数である。

全国募集選抜※4	出願者数	受験者数	合格者数
	10	10	10

※４　第一次募集人数の外数である。

（単位：人）

		通信制課程（一期）		通信制課程（二期）	
		令和6年度	令和5年度	令和6年度	令和5年度
入学者選抜	募集定員	450	450	50	50
	募集人数	450	450	199	223
	出願者数	196	206	9月受付	9
	受験者数	195	206	9月実施	9
	合格者数	195	206	9月実施	9

② 学科別出願者数・合格者数等

イ 全日制課程

（単位：人、％）

	学 科	募集定員	第一次募集			中高一貫教育進学者数	第二次募集合格者数	全合格者数
			出願者数	合格者数	合格率			
1	普 通	8,720	9,266	7,937	85.7	216	69	8,006
2	農 業	640	591	508	86.0	―	5	513
3	工 業	1,480	1,350	1,267	93.9	―	7	1,274
4	商 業	1,040	978	833	85.2	15	6	839
5	水 産	240	161	160	99.4	―	0	160
6	体 育	120	107	109	101.9	―	0	109
7	英 語	80	88	80	90.9	―	0	80
8	家 庭	120	80	76	95.0	―	4	80
9	看 護	40	40	40	100.0	―	0	40
10	理 数	120	170	120	70.6	―	0	120
11	美 術	40	52	41	78.8	―	0	41
12	総 合	840	535	502	93.8	―	10	512
13	福 祉	40	24	24	100.0	―	0	24
14	災害科学	40	54	40	74.1	―	0	40
15	探 究	80	113	80	70.8	―	0	80
計		13,640	13,609	11,817	86.8	231	101	11,918

※ 中高一貫教育進学者数は、連携型選抜合格者数と併設型中学校から併設型高校への進学者数を合わせたもの。第一次募集合格者数の内数である。

ロ 定時制課程

（単位：人、％）

	学 科	募集定員	第一次募集			中高一貫教育進学者数	第二次募集合格者数	全合格者数
			出願者数	合格者数	合格率			
1	普 通	720	335	318	94.9	―	21	339
2	工 業	240	49	48	98.0	―	4	52
計		960	384	366	95.3	―	25	391

③ 地区別出願者数・合格者数等（全日制課程）

（単位：人、％）

	地 区	募集定員	第一次募集			中高一貫教育進学者数	第二次募集合格者数	全合格者数
			出願者数	合格者数	合格率			
1	刈田・柴田	1,160	955	910	95.3	―	20	930
2	伊 具	280	175	175	100.0	―	7	182
南部地区		1,440	1,130	1,085	96.0	―	27	1,112
3	亘理・名取	920	946	854	90.3	―	8	862
4	仙 台 南	2,320	2,977	2,321	78.0	104	0	2,321
中部南地区		3,240	3,923	3,175	80.9	104	8	3,183
5	仙 台 北	2,720	3,386	2,667	78.8	―	13	2,680
6	塩 釜	1,040	1,160	1,025	88.4	―	1	1,026
7	黒 川	480	471	405	86.0	―	8	413
中部北地区		4,240	5,017	4,097	81.7	―	22	4,119
8	大 崎	1,200	948	921	97.2	92	16	937
9	遠 田	400	270	243	90.0	―	8	251
10	登 米	560	446	442	99.1	―	0	442
11	栗 原	520	360	355	98.6	―	2	357
北部地区		2,680	2,024	1,961	96.9	92	26	1,987
12	石 巻	1,440	1,118	1,105	98.8	―	17	1,122
13	本 吉	600	397	394	99.2	35	1	395
東部地区		2,040	1,515	1,499	98.9	35	18	1,517
総 計		13,640	13,609	11,817	86.8	231	101	11,918

※ 中高一貫教育進学者数は、連携型選抜合格者数と併設型中学校から併設型高校への進学者数を合わせたもの。第一次募集合格者数の内数である。

④ 学科別出願倍率

H31は後期選抜，H24は一般入試　　（単位：倍）

学 科		出願倍率				
		R6	R5	R4	H31	H24
1	普　通	1.06	1.11	1.09	1.18	1.27
2	農　業	0.92	0.83	0.84	1.13	0.94
3	工　業	0.91	0.96	0.97	1.08	1.21
4	商　業	0.94	0.87	0.79	0.95	1.28
5	水　産	0.67	0.55	0.49	0.77	0.97
6	体　育	0.89	0.85	0.93	1.28	1.54
7	英　語	1.10	1.11	1.09	0.89	1.22
8	家　庭	0.67	0.73	0.82	0.95	1.06
9	看　護	1.00	1.20	1.45	1.50	1.50
10	理　数	1.42	1.54	1.57	1.40	1.29
11	美　術	1.30	1.60	1.18	1.45	1.00
12	総　合	0.64	0.64	0.66	0.79	1.12
13	福　祉	0.60	0.93	0.65	0.40	―
14	災害科学	1.35	0.95	0.98	1.04	―
15	探　究	1.41	1.31	1.79	―	―
全日制課程		1.00	1.02	1.01	1.11	1.23
定時制課程		0.40	0.37	0.34	0.36	0.49

⑤ 地区別出願倍率（全日制課程）

H31は後期選抜、H24は一般入試　　（単位：倍）

地 区	出願倍率				
	R6	R5	R4	H31	H24
南部地区	0.78	0.85	0.76	0.84	0.96
中部南地区	1.21	1.23	1.20	1.30	1.46
中部北地区	1.18	1.21	1.20	1.39	1.48
北部地区	0.76	0.76	0.78	0.78	0.97
東部地区	0.74	0.79	0.80	0.84	0.98
総　　計	1.00	1.02	1.01	1.11	1.23

⑥ 出願状況から見た全県一学区化に伴う地区外受験状況について

※数値は総受験者に対する各地区外受験者数の割合（%），H31は後期選抜，H24は一般入試

全体推移		県内一学区(H22～)				
		第一次募集制			前期・後期制	一般入試制
		R6	R5	R4	H31	H24
地区外受験者の割合		17.1%	17.2%	16.6%	18.0%	14.5%
内訳	1　中部南北地区間	10.8%	10.3%	10.1%	10.9%	8.7%
	2　中部地区と他地区間	5.6%	5.7%	5.8%	6.3%	5.0%
	3　中部地区以外の地区間	0.7%	0.9%	0.7%	0.8%	0.8%

令和6年度公立高等学校入学者選抜学力検査の分析結果について

1　目　的

（1）検査問題の妥当性を検証し、今後の内容・形式等の改善に役立てる。
（2）受験者の学習成果の実態を明らかにし、県下中学校の学習指導上の課題を考察し、改善の指針を示す。

2　学力検査の実施教科

国語、社会、数学、理科、英語

3　分析結果

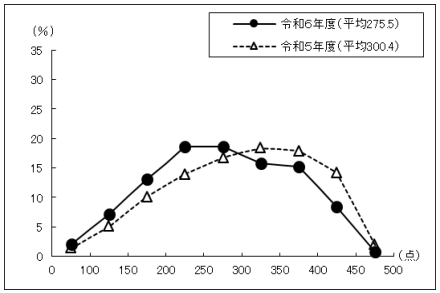
（1）平均点

教科	国語	社会	数学	理科	英語	総点	受験者数
平均	59.0 (70.9)	59.6 (68.0)	49.9 (45.6)	56.6 (58.8)	50.4 (57.1)	275.5 (300.4)	13,149人 (13,704人)
最高	96 (99)	100 (100)	100 (100)	100 (100)	100 (100)	479 (490)	
最低	0 (2)	0 (3)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (33)	
中央値	61 (75)	61 (71)	51 (46)	57 (60)	46 (58)	274 (308)	
最頻値	63 (82)	82 (86)	54 (48)	57 (73)	23 (93)	220 (325)	
合格者平均	59.0 (70.9)	59.4 (67.7)	49.8 (45.6)	56.5 (58.7)	50.1 (56.9)	274.8 (299.8)	

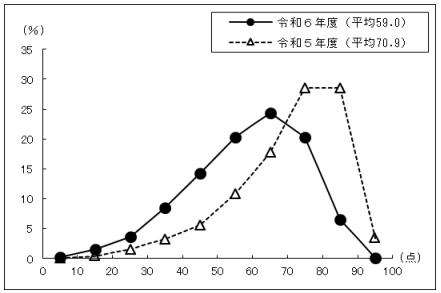
※ 数値は、全日制課程受験者の値
※（　）は昨年度の値

（2）総点及び各教科の得点分布

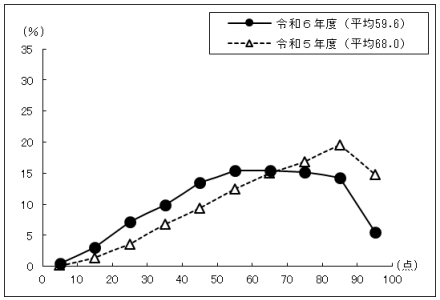
総点



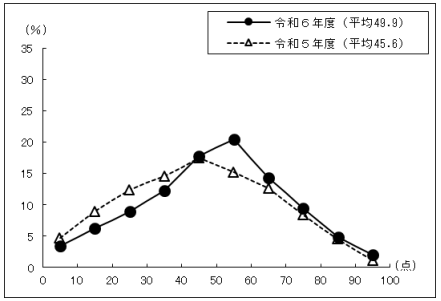
国語



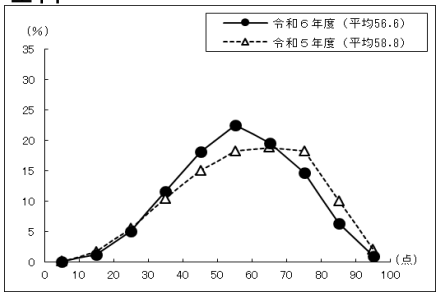
社会



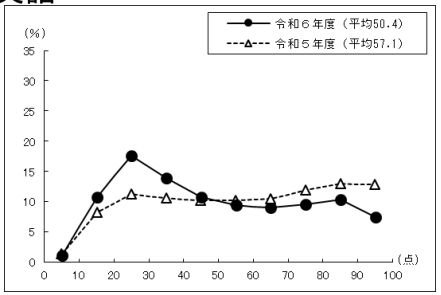
数学



理科



英語



（3）各教科の概況

全日制課程の学校・学科の中から学力検査総点の受験者平均点を基にして50校・学科を抽出、さらに調査書総点ごとのバランスに留意して合計400人の答案を抽出し、教科ごと、小問ごとにその状況を分析考察した。

教科	概　況
国語	引用の仕方や出典の示し方など、情報の扱い方に係る知識は定着しているが、場面の展開や登場人物の心情の変化などを、根拠となる描写を基に捉え、適切に表現することに課題が見られた。
社会	基礎的・基本的な用語を理解し、個々の資料から情報を読み取ることはできているが、複数の資料の情報を関連付けて考察することや事象を多面的・多角的に考察し適切に表現することに課題が見られた。
数学	数と式の計算についての基礎的・基本的な知識・技能の定着は見られるものの、判断した事柄の根拠を数学的な表現で説明する力、見通しをもち筋道を立てて表現する力に課題が見られた。
理科	基本的な知識は定着しているが、観察・実験で得られた結果や資料を科学的な根拠に基づいて分析したり、図やグラフから読み取ったデータを分析したりすることに課題が見られた。
英語	音声による短い説明や、平易な表現が用いられた資料から、必要な情報を掴むことはできているが、まとまった量の英文を読み、書かれている情報を整理して要点を捉えることに課題が見られた。
まとめ	基礎的・基本的な知識や技能を問う問題の正答率は高い。一方で、与えられた情報や結果を、既習知識等と関連付けて考察する問題や、論理的に表現する力が求められる問題においては、正答率・得点率が低く、無答率も高い傾向を示している。

※無答率：解答欄が空白であったものの割合

（4）今後の対応

知識・技能を活用して、課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育成するため、生徒が主体的に学習活動に取り組む場面の設定などの工夫や、授業の構成及び指導のあり方の改善が必要である。

教科	授業づくりのポイント
国語	登場人物の心情が描かれた場面を取り上げ、描写を基に捉えたことを伝えあうことで、生徒の考えを広げたり深めたりする。
社会	各分野の視点を生かした「問い」を設定し、複数の資料を比較したり、関連させたりして、考察する学習活動を充実させる。
数学	日常の事象や社会の事象を数理的に捉え、数学的に表現・処理し、問題を解決する活動を重視する。また、記述内容の正確性・妥当性を確認する機会を充実させる。
理科	生徒が主体的に探究する活動を充実させ、根拠に基づいた議論や表現する機会を充実させる。また、実験・観察において、規則性や関係性を考察する活動を充実させる。
英語	CAN-DOリストを基に授業の目標を明確にした上で、目的や場面、状況を適切に設定した、必然性のある言語活動を行う。

報告（２）

令和７年度公立高等学校入学者選抜について

①　募集定員

		令和７年度	令和６年度	増減
全日制課程＋定時制課程		14,400	14,600	▲ 200
	全日制課程	13,440 ※1 ※2	13,640 ※1 ※2	▲ 200 ※3
	定時制課程	960	960	0
通信制課程（美田園高校）		500	500	0
	一期入学者選抜	450	450	0
	二期入学者選抜	50	50	0

※１： 全日制の第一次募集の募集定員には、併設型及び連携型中学校からの入学予定者２８２人を含む。

※２： 全国募集選抜の募集人数は、募集定員の外数とし、南三陸高等学校で１２人程度、中新田高等学校で５人程度の募集である。

※３： 募集定員減の内訳
① 蔵王高等学校普通科の白石高等学校蔵王キャンパス化に伴う、４０人の減。
② 富谷高等学校普通科の１学級減による、４０人の減。
③ 迫桜高等学校総合学科の１学級減による、４０人の減。
④ 一迫商業高等学校流通経済科・情報処理科の築館高等学校一迫商業キャンパス化及び学科改編に伴う、４０人の減。
⑤ 水産高等学校海洋総合科の学科改編に伴う、４０人の減。

②　日程等

第一次募集・連携型選抜・全国募集選抜 ※4 ※5		実施する検査等
本試験	令和７年３月　４日（火）	○ ５教科の学力検査（国語・社会・数学・英語・理科） ○ 学校によっては面接・実技・作文のいずれかを実施
追試験 ※6	令和７年３月　７日（金）	○ 本試験に準じる
合格発表	令和７年３月１３日（木）	

第二次募集 ※7		実施する検査等
検査日	令和７年３月１９日（水）	○ 学力検査、面接、実技、作文のいずれか１つ又は複数を実施 ○ 学力検査を実施する場合は、国語・数学・英語のうち１教科以上を実施
合格発表	令和７年３月１９日（水） または２１日（金）	○ 合格発表の日程については、実施校で定め、後日公表する

※４： 連携型選抜については、連携型中高一貫教育を行っている南三陸町内の２中学校（志津川中、歌津中）の生徒を対象として、南三陸高等学校において実施。

※５： 全国募集選抜については、南三陸高等学校、中新田高等学校において実施。

※６： やむを得ない事由で、本試験を受験できなかった生徒を対象として実施。

※７： 第一次募集に合格していない生徒等を対象として、合格者数が募集定員に満たない高校において実施。

報告３

イ　高校入試におけるＷｅｂ出願について

１　検討の趣旨

インターネット環境の整備、社会全体のデジタル化が進んでいることから、これまで書面や郵送で行っていた出願手続きをデジタル化、オンライン化することで、受験生や学校の負担軽減及び入試業務の効率化を促進できるかどうか、どのような課題が生じるかを洗い出したうえで、Ｗｅｂ出願導入の実現可能性について検討した。

２　審議の経過

（１）　令和５年度　第１回高等学校入学者選抜審議会（令和５年７月２６日、県庁）

○　Ｗｅｂ出願に関する調査研究のため専門委員会設置を検討

- Ｗｅｂ出願はぜひ導入すべき。実施することを前提として検討を進めてほしい。
- 私立高校がＷｅｂ出願になり、中学校では業務負担がかなり軽減された。
- セキュリティ上の問題や個人情報の保護等、課題はたくさんある。

（２）　令和５年度　第２回専門委員会（令和５年９月２７日、県庁）

○　出願手続きについて

- 県収入証紙を購入するには、販売所や販売時間の制約があるため、保護者の負担が大きい。
- 中学校、高等学校では処理作業の負担軽減が期待できる。

○　他県で実施するＷｅｂ出願に関する調査結果について

- 選抜手数料の納付について、クレジットカード決済やコンビニ決済などの利用により、利便性の向上が期待できる。
- 調査書のデジタル送信が可能になれば、入試だけではなく、入試後の様々なデータ処理等においても業務軽減が期待できる。

（３）　令和５年度　第３回専門委員会（令和６年３月２５日、県庁）

○　調査書の提出、決済方法等について対応策や課題点を共有

- Ｗｅｂ出願においても画面上での確認は難しい。紙媒体での確認が必要。
- 選抜手数料の納付について、決済方法により手数料が変わる。急遽の出願取り消しや、出願変更のような場合、一度納付を済ませてしまうと、その後のやり取りが難しい場合がある。

３　システム導入による利点と課題

（１）　利点

- 時間にとらわれずに手続きができる、多様な納付方法を選択できる等、利便性の向上が期待できる。
- 郵送による出願時における郵便物不着等の不安が解消される。
- 中学校・高等学校の業務負担の軽減が期待できる。
- 調査書のデジタル送信によって、入試後のデータ処理に関する負担の軽減が期待できる。

（２） 課題

・ インターネット上で個人情報を取り扱うことになるが、セキュリティを担保できるか。
・ インターネット環境が良好でない家庭への対応が必要である。
・ 急遽の出願取り消しや、出願変更のような場合も含めて、一度納付を済ませてしまうと、その後のやり取りが難しい場合がある。
・ 調査書等の電子化により、中学校での事務的作業が増えるのではないかという疑念がある。

４ システム導入に向けた課題への対応策

（１） Ｗｅｂ出願のために用いる高度なセキュリティを確保したシステムの構築

（委員からの御意見）

○ 県教育委員会および市町村の教育委員会において、セキュリティへの対応が必要。

（対応策）

○ 総務省の情報セキュリティポリシーに関するガイドラインや県のセキュリティポリシーを踏まえながら、仕様において SSL/TLS 等の暗号化通信を用いることや、クラウドサービスのセキュリティに係る第三者認証の取得を条件とすることで、調査書の電子化も含めた高度なセキュリティを確保したシステムの構築が可能である。

（第三者認証の例）ISMS、ISO/IEC27017 に基づく ISMS クラウドセキュリティ認証、ISMAP に登録されているクラウドサービス

（２） 出願者のインターネット接続環境

（委員からの御意見）

○ 私立高校におけるＷｅｂ出願において、家庭のインターネット環境が良好ではないため、コンビニエンスストアのネットワークに接続して入力を行った家庭があった。

○ 私立高校におけるＷｅｂ出願において、インターネットでの申請が難しいという家庭については中学校でサポートした。高校側の支援もあり、助かった。

（対応策）

○ インターネット接続環境が良好でない家庭に対しては、中学校等にサポートを要請し対応する。

（３） オンライン決済等に対応した納付システムの構築

（委員からの御意見）

○ 選抜手数料の納付をクレジットカード決済やコンビニ決済等で行えるようになれば、利便性が非常に高まると考える。夜間に行えることは、保護者の負担軽減につながる。

○ はじめのうちは、収入証紙との併用も検討してはいかがか。

○ 決済方法により、手数料が変わってくる。また、急遽の出願取り消し・出願変更のような場合、一度お金が動いてしまうと、その後のやり取りが難しい場合がある。

（対応策）

○ 県では令和７年度末に収入証紙が廃止となるため、入学者選抜手数料の納付は、クレジットカード決済、コンビニ決済、ペイジー等の導入により対応する。

○ 決済方法により手数料が異なることについては、決済前に手数料の情報を保護者に提示し、確認を促すことで対応する。

（４） **入学願書以外の出願書類（調査書等）の電子化と取扱い**

（委員からの御意見）

○ 調査書等の電子化により、業務軽減が実現すると思う。

○ 調査書等の電子化により、中学校での事務的作業が増えるのではないか。調査書の確認は画面上より紙媒体の方が、負担が少ない。すべてを電子化するのではなく、電子と紙を併用していくかどうかも含めて検討が必要。

（対応策）

○ 調査書等の取扱いについては、今後、全面的にデジタルに移行することが想定される。また、デジタル庁の調査おいて、調査書の作成・送付にかかる業務負担は、Ｗｅｂ出願の導入により４３～５９％削減されるという試算がなされており、調査書等の電子化を含めたシステムを構築する。ただし、当面は各市町村の環境整備等を要することから、紙との併用への対応が必要である。

５　宮城県におけるＷｅｂ出願システム導入の概況について

（１） Ｗｅｂ出願システム構築事業（案）について

（２） Ｗｅｂ出願システム導入により期待される効果について

（３） Ｗｅｂ出願システム導入による業務削減率等の試算について

６　今後の方向性について

○ 検討の結果、Ｗｅｂ出願については利便性の向上や業務の負担軽減が見込まれ、また、条件設定によりセキュリティ面についても対応できる見通しであることから、Ｗｅｂ出願システムの導入を進めるべきだと考える。

○ システム導入に際しては、受験生や保護者への周知はもちろんのこと、システムを扱う中学校・高校への丁寧な操作説明等が求められる。

補助資料１

Ｗｅｂ出願システム構築事業（案）

■ 事業概要

○ Ｗｅｂ出願システム（インターネットを活用した出願システム）を導入し、出願時の利便性の向上、業務の効率化及び負担軽減を図る。
○ 複数の決済方法を取り入れ、利便性の向上を図る。（クレジットカード、コンビニ決済、ペイジー等を想定）
※入学者選抜手数料（志願者全員）及び入学金（合格者のみ）の納付に利用
○ 合否結果を出願システム上で確認可能とし、合格発表時の利便性の向上及び業務の負担軽減を図る。

■ Ｗｅｂ出願システムのイメージ（高校入試）

出願 ＞＞＞ **合格発表** ＞＞＞ **入学金納付**

志願者・保護者

① 出願システムに出願情報の入力と写真の登録
⇒ 入学願書と写真票の自動作成

② 入学者選抜手数料の納入
複数の決済方法から選択

〔利用可能な決済手段（予定）〕
○ クレジットカード
○ コンビニ決済
○ ペイジー支払い

オンライン

⑨ 受験票の出力・印刷

高等学校での処理終了後

中学校

③ 出願情報の確認
⇒出願システム上で確認

④ 調査書の作成

オンライン

⑤郵送又はオンライン

高等学校

⑥ 出願情報の確認
⇒出願システム上の確認

⑦ 調査書等の受理（郵送の場合）
⑧ 出願システム上で受験番号の入力
⇒自動で受験票作成

○ 出願システム上で合否を確認可能(受験生・中学校)

○ 入学金の納付は出願システム上で**複数の決済方法から選択**

＜Ｗｅｂ出願システム導入による効果＞

【志願者・保護者】⇒利便性の向上
・ 入力内容の確認や入力ミスの訂正が容易となる。
・ 手数料や入学金の納入方法を複数の決済方法から選べるため、納入がしやすくなる。

【中学校】⇒業務負担の軽減・利便性の向上
・ 生徒への受験票の配布が不要となるほか、システム上で生徒の登録や納入の状況がいつでも確認可能となるため、時間の制約を受けずに作業が可能となる。
・ 高校への出願をシステム上で行うことができ、書類の取りまとめや持参等の業務が軽減される。

【高校】⇒業務負担の軽減・利便性の向上
・ システム上で出願者を確認し、受験番号を付与することができるため、出願受付業務等が軽減される。

【その他】⇒移動や合格準備作業の負担軽減
・ 合否を受験生・中学校がシステム上で確認できるため、受験校に見に行く必要がなくなる。

■ 開発・運用スケジュール（予定）

令和６年度 １月 ３月 ／ 令和7年度 ４月 ／ 10月 ／ 11月 ／ 12月 ／ １月 ／ ２月 ／ ３月

高校入試

業者選定 → 業者決定 → 契約 → システム開発 → トライアルサイト開設・操作説明会等 → 出願希望調査 → 事前ID登録 → 第一次募集出願期間 → 第一次募集学力検査 → 合否発表 → 第二次募集出願・合否発表 → 入学手続き

県立中入試

事前ID登録 → 出願期間 → 適性検査実施 → 合否発表

補助資料２

Ｗｅｂ出願システム導入により期待される効果について

１　Ｗｅｂ出願システム導入の背景について

○　高校入試は、中学生にとって今後の人生を左右する重要なものである。

○　そのため、出願手続きにおいてもミスがないように慎重かつ丁寧に行われている。

○　一方で、出願願書の作成、確認及び提出並びに高校における出願書類の受理作業が煩雑となり、出願期間中はその業務に大きく時間が割かれている状況にある。

○　Ｗｅｂ出願システムの導入により、受験生の利便性の向上、中学校・高校における業務の効率化と負担軽減が期待できる。

２　Ｗｅｂ出願システムの導入によって見込まれる負担軽減等について

Ｗｅｂ出願システムによる手続き（例）	従前の出願手続き（例） ※太字は、Web 出願システムの導入により、軽減される作業
	【中学校】 **・生徒に「入学願書・写真票・受験票」を配布**
【中学生・保護者】 ・出願システム上で、必要事項を入力 ・写真データをアップロード ・複数の支払い方法の中から、入学者選抜手数料の納入方法を選択・納付 ※クレジットカード等の場合はシステム上で完結 ○入力・納付が完了した時点で、システム上で「登録」する。	**【中学生・保護者】** ・「入学願書・写真票・受験票」に必要事項を記入　**※記載誤りは二重線で訂正** ・写真票に写真を貼付 **・入学者選抜手数料として、宮城県収入証紙を売りさばき所で購入し、願書に貼付** ○「入学願書・写真票・受験票」を中学校に提出する。
【中学校】 ・出願システム上での登録内容及び納付状況の確認や差戻し ・調査書の作成（紙の場合）または調査書データのアップロード ○出願システム上で、確認が完了した生徒を高校へ「出願」する。なお、調査書を紙で作成の場合は、高校へ郵送（または持参）。	**【中学校】** **・提出された出願書類の確認及び生徒への訂正依頼** ・調査書の作成 **・出願者一覧表の作成** **・受験票等送付用封筒の準備（任意）** **・結果通知用封筒の準備（任意）** **○出願する高校ごとに上記の出願書類をまとめ、持参または郵送により「出願」する。**
【高校】 ・出願システム上で、入試担当が出願状況及び調査書（紙）を確認 ・確認終了後、受験番号を採番し、「発行」⇒受験票が自動作成 ※「発行」した段階で、受験生は各自で受験票の出力可能 ※出願システムに入力されたデータは、電子ファイルで出力可能	**【高校】** **※出願書類が届いた段階で、担当教員と事務職員は業務を中断して対応** **・事務職員及び入試担当で出願書類の確認** **・「入学願書・写真票・受験票」に受験番号を発番** **・「受験票」に割り印及び学校名を押印** **▪受験票を中学校に交付（手交または郵送）** ※入学願書等の記載内容をデータ入力
【生徒・保護者】 ・受験票を各自で出力・印刷	**【中学校】** **▪中学生に受験票を配布** **【生徒・保護者】** ・中学校を通じて受験票を受領
合格発表　※合格発表のあり方は今後検討	
・受験生は出願システム上で自身の合否結果の確認が可能 ・中学校は出願システム上で、自校の生徒の合否状況の確認可能 ※不合格だった場合の精神的負担が軽減 ⇒入学準備物の配布を合格発表日の翌日に実施（合格者のみ） ・高校教育課ＨＰの掲載の要否は、今後検討	**▪合格発表は、各高校で合格者受験番号一覧を掲示** ・中学校に結果通知書及び合格者の合格通知書を手交または郵送 ※ほとんどの受験生が受験した高校に足を運び、結果を確認している。 ⇒入学準備物の受領のため ※高校では、掲示板の作成及び掲示内容の確認作業を行っている。 ・高校教育課ＨＰで全高校の合格者受験番号一覧を公表
入学金の納付	
・複数の支払い方法の中から、入学金の納入方法を選択・納入 ※クレジットカード等の場合はシステム上で完結 ・出願システム上で納入状況を確認　※消印作業は不要となる	**・入学金として、宮城県収入証紙を売りさばき所で購入し、入学誓約書に貼付** **・収入証紙の消印**

補助資料３

Web出願システム導入による業務削減率等の試算について（高校入試第一次募集）

	従前（分）	導入後（分）	削減率	費用換算 中193校、高75校
生徒･保護者	136分	31分	77.2%	
中学校	9,501分	1,523分	84.0%	57,689,450円
高校	8,496分	2,244分	73.6%	17,568,120円
合計	18,133分	3,798分	79.1%	75,257,570円

○ 費用換算については、（41歳）教育職（一）2級-84号俸（月額）377,400円を基準として、
（月額377,400円×12ヶ月）／（週38.75時間×年52週）＝2,248円（時間給）で算出

ロ　調査書の記載事項について

１　検討の趣旨

調査書の記載事項については、文部科学省からの通知で入学者選抜の実施に真に必要な事項に見直しを図ることが求められており、また、部活動の地域移行に伴い、生徒の校内外での活動の成果について、今後、調査書での取扱いをどのようにするか等、本県公立高校入試の調査書の記載事項及び様式について精査するために検討した。

２　審議の経過

（１）　調査書の構成項目について

（委員からの御意見）

- 特定の項目について、調査書項目として不要である、と判断することは難しい。
- 「欠席の状況」は、記載があることで受験生の不利にはなり得ないか、真に必要な情報かどうか、懸念がある。
- 「欠席の状況」は、合否には関わらないが、受験生の生活状況を伝える、知るという意味で、中学校、高校ともに活用している。
- 「欠席の状況」欄を学籍情報の場所に移動したもの（調査書様式例ハ）も、中学校、受験生、保護者の立場からすれば、欠席の情報が高校に伝わるという印象は変わらない。

（対応）

- 「欠席の状況」欄の要否について、多くの意見があり、受験生の生活状況を伝える、知るという意味で、中学校、高校ともに活用しているが、選抜資料として活用はしていない。
- 「欠席の状況」欄が選抜資料として使われているのではないかとの誤解も生じていることから、調査書から「欠席の状況」欄を削除し、調査書様式例　ロ　の形とするのが望ましい。
- ただし、入学後の学校生活を円滑に進めるためには中学校との情報交換は不可欠であり、欠席日数はその上で重要な資料となりうることから、情報を共有するための別の方法を検討する必要がある。

（２）　部活動の活動状況等の記載について

（委員からの御意見）

- 受験生の中学校や地域での活動の様子を伝える記載欄が設けられていることはよい。
- 部活動の地域移行の地域差等を考慮し、部活動に特化していない現状の記載欄はよい。
- 地域での生徒の活動状況を知るためには、生徒自身からの聞き取りや、外部指導者との情報交換の機会を持つことが必要である。

（対応）

- 部活動の地域移行の状況は地域差が大きく、自由加入制であるか等の扱いについても、学校により様々ではあるが、部活動の活動状況等の記載については、特色選抜においても活用されているため、現行のものを維持する。

・ 部活動等の学校における活動については「特別活動の記録」欄に記載し、地域で行っている活動については「特記事項」欄に記載することを、記載例とともに中学校へ周知する必要がある。
・ 特記事項欄に記載する地域で行っている活動については、中学校が生徒自身からの聞き取りや、外部指導者との情報交換を行い、活動の様子や実績について確認することが必要となる。なお、受験生・保護者に向けて、地域で行っている活動についても調査書に記載されることを周知していく必要がある。

3　今後の方向性について

（1） 調査書の構成項目について

・ 「欠席の状況」欄については、選抜資料として活用していない点、また、受験生・中学校側からは選抜に使われているのではないかという誤解が生じている点を踏まえて、選抜資料として真に必要な事項とは言えないことから、調査書から削除することが望ましい。
・ ただし、高校では入学者の学校生活を適切に支援できるよう、欠席日数を重要な資料とし、中学校と情報交換を行っていることから、情報を共有するための別の方法を検討する必要がある。

（2） 部活動の活動状況等の記載について

・ 部活動の活動状況等の記載については、現行の調査書において、特色選抜で十分な活用がなされているため、現行の様式・記載事項を維持することが望ましい。
・ 中学校に対して、中学校での活動については「特別活動の記録」欄に、地域で行っている活動については「特記事項」欄に記載することを、記載例とともに中学校へ周知する。
・ 地域で行っている活動については、中学校が生徒自身や外部指導者から活動の様子や実績について確認を行う必要がある。また、地域で行っている活動が調査書に記載されることを生徒・保護者へ周知する必要がある。

ハ　現行入試制度における、例外的な選抜の在り方について

１　検討の趣旨

他都道府県では、特色ある教育を進めるにあたり、入試についても一般的な学力検査と調査書によらない選抜方法等を用いている事例が見られる。本県でも、今後、学びの多様化や少子化における高校の在り方など、高校の将来構想を進める中で、入試制度においても対応が求められるため、現行入試制度における例外的な選抜の在り方について調査研究を行う。

２　調査研究の経過

第３回専門委員会（令和６年３月２５日、県庁）において、他都府県の公立高等学校における特徴的な入試制度の事例について情報共有した。

（委員からの御意見）

- 多様な学びに対する入試制度を様々な形で確保していくということは、今後必要な観点である。
- 大学の総合型選抜のように、多様なニーズ、多様性のある子どもたちの受け入れという観点で、新たな仕組みの入試制度を、従来の入試制度とは別の形で考えていく必要がある。
- どのような教育体系、教育システムを構築するかによる。その教育システムに合致する入試制度を検討する必要がある。

３　他県の状況

○　様々な背景を有する生徒の受け入れのため、学力検査や調査書によらない入学者選抜を実施

○　パターンとしては、概ね次の通り

〔学力検査〕実施、一部実施（国数英）、実施しない、志願者が実施の有無を選択

〔調 査 書〕提出（すべて記載）、提出（一部記載不要：評定、観点別評価　等）、提出不要

〔面　　接〕あり、なし

〔作　　文〕あり、なし

〔そ の 他〕志願申告書、副申書、教材配布（取り組みについて面接で確認）

（参考）

設置自治体	課程	学科	学力検査	調査書	面接	作文	その他
東京都	定・単	総	なし	なし	あり	あり	志願申告書
東京都	全・定・単	普・工	なし	あり（観点別評価）	あり	あり	志願申告書
神奈川県	全	普	なし	あり（観点別評価）	あり	なし	自己表現検査
大阪府	全・定・単	普・総	あり	あり	あり	なし	自己申告書
京都府	全	普	一部（国数英）	あり（欠席状況）	あり	あり	―
京都府	定・単	普	選択制（有or無）	あり	あり	あり	―
京都市	定・単	普	一部（国数英）	あり	あり	なし	学校作成教材副申書
奈良県	全・定・通・単	普	あり	なし	あり	なし	―
鹿児島県	全・定・通	普　他	なし	なし	あり	あり	―

（課程）全：全日制　定：定時制　通：通信制　単：単位制

（学科）普：普通科　工：工業科　総：総合学科

４　本県における「新たなタイプ」の学校の設置

○　第３期宮城県将来構想で設置を検討されていた「新たなタイプ」の学校が、「ｉｄｅａｌ（アイデアル）スクール」として設置されることが公表された。

５　ｉｄｅａｌスクールで現行の入試を実施する場合の課題点

○　現行の入試制度によらない入学者選抜も視野に入れた検討が必要となる可能性がある。

○　ｉｄｅａｌスクールでの入試を検討するにあたり、次のようなものが考えられる。

- 共通選抜を実施しない（特色選抜を１００％とする）ことができる。
- 学力検査の倍率を、一部又は全部の科目で０倍とすることができる。
- 受験生の意欲を計ることのできる学校独自の選抜方法を導入できる。

　⇒学力検査の代わりとして学校独自検査の実施、エントリーシートの提出　など

［委員からの主な意見］

- どのような教育体系、教育システムを構築するかによって、その教育システムに合致する入試制度を検討する必要がある。
- 多様な生徒の受け入れを想定すると、現行の入試制度の枠組みでは難しい。現行の枠組みを利用しつつ柔軟に対応していくことや、複数の枠組みで入試を実施することも検討する必要があるのではないか。
- ｉｄｅａｌスクールにおける入試は先進的な例となる。今現在でも多様な生徒を受け入れている学校があり、そのような学校への応用も視野に入れて検討が必要。

６　今後の方向性について

○　ｉｄｅａｌスクールにおいて、どのような入試を実施するか、現行の入試制度にとらわれずに検討する必要がある。

○　ｉｄｅａｌスクールは、令和９年度の開校を予定していることから、令和７年度にはどのような入試を実施するのかを公表することが望ましい。

【ｉｄｅａｌスクール開校までのスケジュール（予定）】

年度	月	内容
令和６年度	７月	Ｒ６第１回入学者選抜審議会
	９月	Ｒ６第２回専門委員会（選抜の在り方の調査研究）
	１１月	Ｒ６第２回入学者選抜審議会（調査研究中間報告）
	１２月	Ｒ６第３回専門委員会（選抜の在り方の調査研究）
令和７年度	７月	Ｒ７第１回専門委員会（調査研究報告案　審議）
		Ｒ７第１回入学者選抜審議会（調査研究報告）
		選抜概要について公表・周知
令和８年度	７～１０月	学校説明会
	２月	令和９年度入試　出願受付
	３月	令和９年度入試　入学者選抜
令和９年度	４月	開校

新たなタイプの学校（idealスクール）の新設について

R6. 6. 12
高校教育課教育改革班

1　設置の背景と基本理念

〇生徒の興味・関心、進路希望の多様化
〇様々な背景を抱えた生徒の増加（学校生活や学習に困難を抱える生徒など）

〇新たなタイプの学校の基本理念
個に応じた多様な学びと、学習者中心の支援により、
生徒の自律的な学びの実現と、将来の社会的自立に必要な資質・能力の育成を目指す。

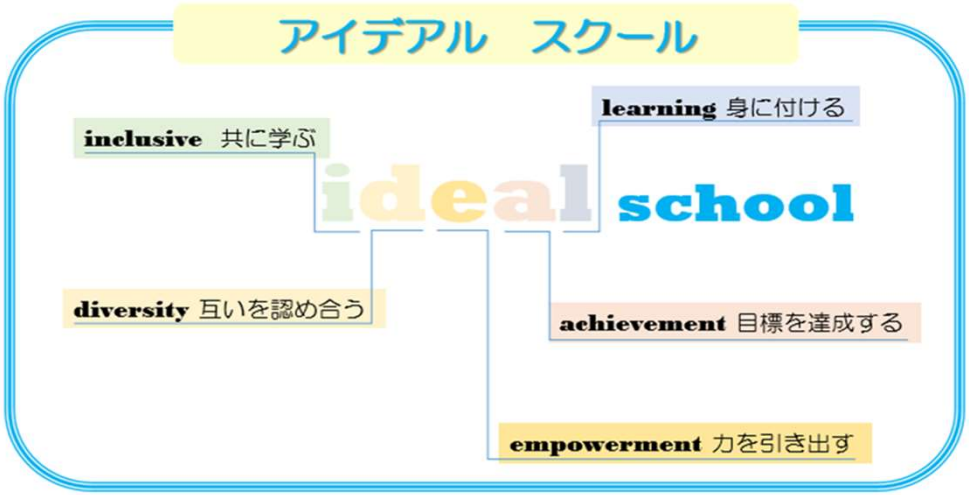
2　新たなタイプの学校の概要

〇設置場所等　宮城広瀬高等学校を新たなタイプの学校に転換し、
令和９年度に開校(予定)
※宮城広瀬高等学校は令和９年度に募集を停止し、
令和１０年度末で閉校
〇募集定員　２００名
〇設置課程等　全日制・普通科・単位制

3　求める生徒像

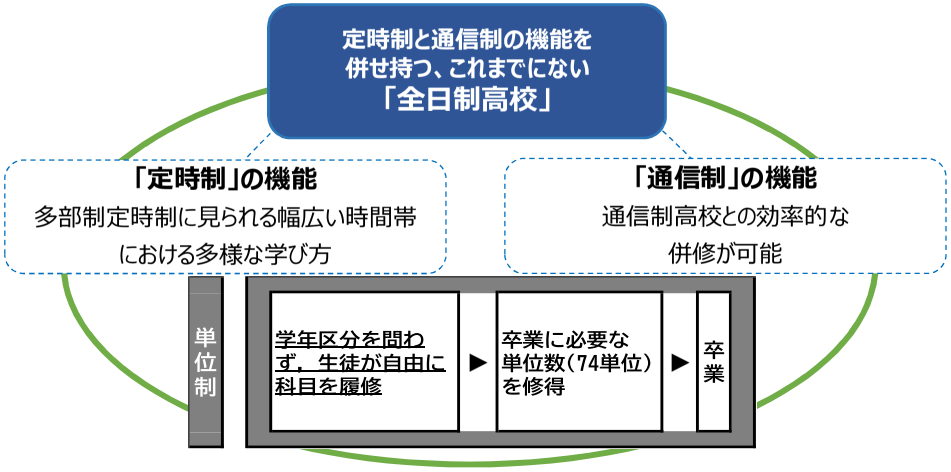
〇次のような、多様な生徒を求めます

- 大学進学等の進路希望を実現するため、自分のペースで学びたい
- 集団生活や対人関係に不安を感じているが、自分の適性に合わせて学びたい
- 興味関心や適性に合わせ自己決定しながら柔軟に学びたい
- 学習のつまずきの解消のため、基礎基本に戻って学びたい
- 音楽活動やスポーツ等のため自由な時間を持ちながら学びたい
- 学校に登校していない期間があったが、自分の状況に合わせて学びたい



idealとは「理想、理想的」という意味の英単語ですが、ここでは、各単語の頭文字を合わせた造語としての意味を重ねています。さらには、目指す教育の実現のために、多くのアイディア（idea）、工夫を追求していくという思いが込められています。

4　学校の位置付け



新たなタイプの学校（idealスクール）の新設について

5　学校の特色

idealスクール

Ⅰ　フレキシブルな学び方
(1)単位制の導入
(2)幅広い授業時間帯の設定
(3)通信制高校との併修
(4)資格取得、ボランティア等を単位として認定

Ⅱ　魅力ある学び
(1)探究的な学び
(2)ICTを活用した学び
(3)地域等と連携した学び
(4)多様な人材を活用した学び

Ⅲ　多様な教科・科目
(1)多様な進路希望に応じた教科・科目
(2)学び直しのための教科・科目
(3)習熟度別授業の導入

Ⅳ　サポート体制の充実
(1)チューター制の導入
(2)多様なスタッフ（スクールカウンセラー・ソーシャルワーカー、地域人材・NPO等）による支援

6　幅広い授業時間帯

○１～８校時の幅広い授業時間帯を設定し、生徒自身の生活スタイル、興味・関心等に応じて、主体的な授業選択が可能

1校時	2校時	3校時	4校時	昼休み	5校時	6校時	7校時	8校時
主に選択教科・科目		コアタイム（主に必履修教科・科目を設置） LHR及び総合的な探究の時間等も含む					主に選択教科・科目	

	1	2	3	4	5	6	7	8
	多様な教科・科目		必履修科目				多様な教科・科目	
月		選	必	必	必	必		
火	選	選	必	必	必	必		
水			必	必	必	必	選	
木			必	必	必		選	
金		選	必	必	必	必		
			コアタイム					

7　多様な教科・科目

○多様な科目の設置に加え、資格取得やボランティア、他の高校での科目履修などの学校外学修等を幅広く単位として認定
○将来の社会的自立に必要な資質・能力の育成に繋がる学びや多様な人材を活用した学びなど、魅力ある学びを実施

設置する科目の視点
- ○国公立大学受験に対応した学び
- ○教養を深める学び
- ○多様な興味・関心に応じた学び

学び直しにも対応

→

多様な進路の実現
- 大学進学
- 専門学校
- 就職

8　充実したサポート体制

○従来の「学級」は置かず、チューター制を導入

チューター

・生徒の進路希望に応じた、**教科・科目の選択や時間割の作成などのサポート**
・学校生活や友人、家庭に関する**悩みへの相談対応**

→

生徒

↓

生徒の希望する進路の実現や目標の達成

○地域人材やＮＰＯ等とも協力してさまざまな側面からサポート体制を構築
○ICTを活用した生徒との連絡体制を構築

資料３

調査書様式例

イ　現在の調査書様式

ロ　欠席の状況欄を削除した調査書様式

ハ　欠席の状況欄を学籍情報の記載欄に移した調査書様式

イ　現在の調査書様式

（令和●年度入学者選抜用）

調査書

調査書等作成委員会	
記載責任者印	

受験番号	※No.

氏名（ふりがな）		性別	
生年月日	平成　年　月　日生		
卒業年月	令和　年　月		

記載内容に誤りがないことを証明します。

令和　年　月　日

学　校　名

校長氏名　　印

1　各教科の学習の記録

教科＼学年	1	2	3	※
国語				
社会				
数学				
理科				
外国語				
音楽				
美術				
保健体育				
技術・家庭				

2　総合的な学習の時間の記録

3　行動の記録

基本的な生活習慣		思いやり・協力	
健康・体力の向上		生命尊重・自然愛護	
自主・自律		勤労・奉仕	
責任感		公正・公平	
創意工夫		公共心・公徳心	

4　特別活動等の記録

(1) 学級活動　(2) 生徒会活動　(3) 学校行事　(4) その他

5　スポーツ活動，文化活動，社会活動，ボランティア活動等の記録

6　欠席の状況

学年＼事項	欠席日数	事由
1		
2		
3		

7　特記事項

※No.

学籍情報等記入欄

1　各教科の学習の記録
第１～３学年の５段階評定

2　総合的な学習の時間の記録
学習活動及び学習評価の観点の中で顕著な事項や成長の様子

3　行動の記録
第３学年の状況について、項目ごとに○印で記す

4　特別活動等の記録
部活動については、「(4)その他」として記入

5　スポーツ活動、文化活動、社会活動、ボランティア活動等の記録
各分野のいずれかについて、特に優れた実績がある場合に記述

6　欠席の状況
欠席日数が７日以上の場合に主な理由等を記入

7　特記事項
転・編入学に関すること、健康状態に関すること等

ロ　欠席の状況欄を削除した調査書様式

様式例（ロ　欠席欄を削除）

（令和●年度入学者選抜用）

調査書

調査書等作成委員会	
記載責任者印	

受験番号	※No.

ふりがな 氏　名		性別	
生年月日	平成　　年　　月　　日生		
卒業年月	令和　　年　　月		

記載内容に誤りがないことを証明します。

令和　　年　　月　　日

学　校　名

校 長 氏 名　　印

1　各教科の学習の記録

教科＼学年	1	2	3	※		
国　語						
社　会						
数　学						
理　科						
外国語						
音　楽						
美　術						
保健体育						
技術・家庭						

4　特別活動等の記録

(1) 学級活動　(2) 生徒会活動　(3) 学校行事　(4) その他

2　総合的な学習の時間の記録

5　スポーツ活動，文化活動，社会活動，ボランティア活動等の記録

3　行動の記録

基本的な生活習慣		思いやり・協力	
健康・体力の向上		生命尊重・自然愛護	
自主・自律		勤労・奉仕	
責任感		公正・公平	
創意工夫		公共心・公徳心	

6　特記事項

※No.

※　「6　欠席の状況」を削除。

※　「7　特記事項」を「6　特記事項」とし、体裁を調整。

ハ　欠席の状況欄を学籍情報の記載欄に移した調査書様式

様式例（ハ　欠席欄を移動）

（令和●年度入学者選抜用）

調査書

調査書等作成委員会	
記載責任者印	

受験番号	※No.

ふりがな 氏名		性別	
生年月日	平成　年　月　日生		
卒業年月	令和　年　月		

記載内容に誤りがないことを証明します。

令和　年　月　日

学　校　名

校　長　氏　名　印

※No.

欠席の状況

学年＼事項	欠席日数	事由
1		
2		
3		

1　各教科の学習の記録

教科＼学年	1	2	3	※
国語				
社会				
数学				
理科				
外国語				
音楽				
美術				
保健体育				
技術・家庭				

2　総合的な学習の時間の記録

3　行動の記録

基本的な生活習慣		思いやり・協力	
健康・体力の向上		生命尊重・自然愛護	
自主・自律		勤労・奉仕	
責任感		公正・公平	
創意工夫		公共心・公徳心	

4　特別活動等の記録

(1) 学級活動　(2) 生徒会活動　(3) 学校行事　(4) その他

5　スポーツ活動，文化活動，社会活動，ボランティア活動等の記録

6　特記事項

※　「6　欠席の状況」を学籍情報欄に移す。（欠席日数を選抜資料として用いていないことを明確にするため。）